

SuBACo だより

2024
8月号

まちなか集客施設
SuBACo

東1条南1丁目1番23号
0125-74-4885
午前10時～午後5時
休館日 毎週土日祝
12月28日～1月4日
(その他不定休)

企画・編集
砂川市役所
商工労働観光課
地域おこし協力隊
篠原由衣・中野有菜

すながわの魅力発掘！

みなさま、こんにちは。砂川市地域おこし協力隊の篠原・中野です！

今月からSuBACoだよりがはじまります。

75店舗以上のお店がある商店街について、旬のたべものについて・砂川の気になるひと、こと、ものを協力隊のわたしたち目線でご紹介し、砂川の魅力を発信していきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

今年5月より
札幌からきました
中野です！



2年目
篠原です！
いっぱいお店
回ります！

SuBACoって？

「SuBACo」とは「Sunagawa(スナガワ)

Bank(バンク)Art(アート) Communication(コミュニケーション)「を略したもの。商店街と消費者、大人と子どもなど、さまざまな人と人がつながり、集いがここから生まれ、SuBACoの外へと広がっていき、中心市街地への人の回遊を生み出すことを目指す情報発信施設です。まちなか観光サイクリング事業として、観光客の方へ向けて電動自転車の貸出も行っています。

まちの風景をつくる人たち

瞬く間に春から夏へ、砂川に来て約3か月が経ちました。日常の行動範囲の中で、意識をしなくても四季の変化を感じ取れる環境は、とても幸せだな、と思います。田植え前の水が張られた田んぼに、トラクターの音とともに目に入るすくすく育つ稲に。黒瀬ラベンダー園から奥にみえた樺戸山地、その手前に見える田んぼ。ラベンダーも見頃を迎えました。除草や田植えのお手伝いをしながら、当たり前だと思っている風景も、人の営みがあるからこそその美しさだな、と改めて感じています。



黒瀬ラベンダー園 除草作業後の風景

8月のおやつ「いよだ」

夏季限定 あいすバー

夏の時期だけ登場する、いよだのあいすバーが今年もはじまっています。

上川大雪酒造の砂川彗星(純米大吟醸)を使用した甘酒あいす・初登場のいちごあいす・チョコあいすの3種類。葛粉が入っていることで溶けにくく、もちっとした食感がやみつきに。チョコ・いちごはお子さまにもおすすめです。8月末頃までの販売予定です。ぜひお早めどうぞ。奥さまが書かれている手書きの店内ポスターも見逃せませ



いよだ(伊豫田製菓)

明治30年創業・127年目を迎えた老舗菓子店。70年以上つづらられている「きぬたまち」や、愛らしい見た目の「たぬぎケーキ」、砂川の玉ねぎを使用したクッキーなど和菓子から洋菓子まで幅広い種類が並び、世代問わず地域の方に愛されているお店です。

〒073-1013

砂川市東1条南2丁目1の8

0125(52)2015

8時30分～19時

(毎月1日・11日・20日は8時30分～17時)

水曜・元旦休み

すながわのおみせ

やまうち洋品店

vol.01

素敵になりたい人をお手伝い 仲良しご夫婦が営む洋服屋さん



(左) 山内隆志さん (右) 弘美さん 仲良しな山内ご夫妻

山内隆志さんのお父様の代から始まった『やまうち洋品店』。札幌やフランスで経験を積んだ山内さんのお店を継ぎました。ファッションが好きだからこそ、七十五歳を迎えた今でも勉強したり情報収集を続けています。札幌の街中の人や、テレビ、趣味の映画鑑賞中でも出演している方の服装をチェックしてしまうほど、いつもファッションについて考えています。その山内さんが一目ぼれしたのが、奥様の弘美さん。元々お店のお客様でした。店内の綺麗な装飾は、お花が好きな弘美さんによるものです。

仲の良いお二人ですが、今では夫婦から親友になったそうです。弘美さんが言うには、「友達だった人も結婚などでお互い価値観が変わって合わなくなりました。だから父さんに「『親友になって。その代わり裏切るんじゃないよ』って。」とのこと。そんなご夫婦で続けてきたお店ですが、「いつまでもできることではないから辞められるうちに。でもまだ流行への感性があるからもういいけどね」と弘美さんはこぼします。



「子どもたちには継いでほしいと思っていない。自分たちがそうだったからこそ、好きなことを見つけてやりなさいと言っている」お二人はお子様たちの人生を尊重しています。

昔と比べてファッションは「自分らしくいたい、着たいものを着たい」傾向が強いそう。「ファッションを楽しんで、何を着てもその人の持ち味が出たらいい」と山内さん。「何歳でも、どんな容姿でも、若くはなれないけど素敵になれる。どうしたら自分が素敵になれるかを考える人のお手伝いができるお店でありたい。手持ちの服にどう合わせたら楽しくなるかを提案できたら。個人のお店だからこそ『色違いはないですか』程度でも相談してみてもいい」取材中も着こなしや商品を色々提案してくれました。いつまでも感性を磨き続けるお二人がちゃんと選んでいるからこそ素敵な商品ばかりでした。もっと素敵になる一歩を『やまうち洋品店』に手伝ってもらってみたいは。



やまうち洋品店

〒073-1016

砂川市西1条北1丁目1の32

0125 (52) 2785

10時〜18時30分

日曜・祝日・年末年始休み

砂川の商店街をご紹介

すながわのおみせ

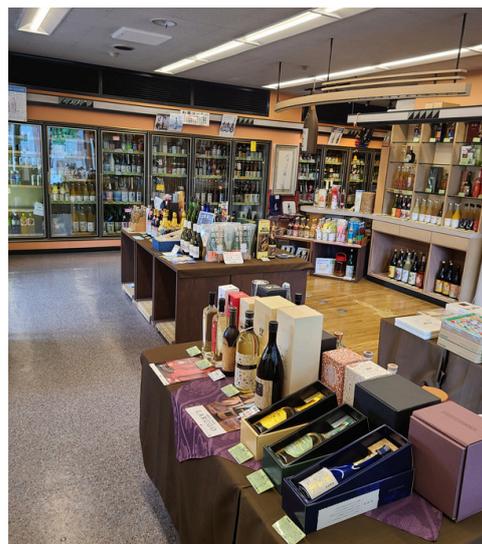
(株)丸ヨ 石家商店

vol.02

感謝の思いと共に歴史を紡いで
きた酒屋さん



丸ヨ石家商店の三代目社長である石家裕二さん



昭和九年創業し、今年で90年となる『石家商店』。現在の社長である石家裕二さんは三代目です。元々は「北の誉」を醸造していた小樽市の丸ヨ野口商店から、そこに勤めていた石家さんの祖父が出張所を引き継いだことがお店の始まりです。ちなみに店舗の裏手にある蔵も元々北の誉さんのもので、こちらは110年経っているそうです。炭鉱が栄えていた時代、お店では小売だけでなく、食料品やサツポロビールの特約店としてビールの卸もやっていました。砂川、奈井江、上砂川、歌志内の酒屋さんへは石家商店から卸していたそう。当時は石家商店だけでなく、どこもみんな繁盛していたと石家さんは言います。

石家さんが大学を卒業する時に、二代目であった父が、将来的に酒屋も商店街も衰退するだろうから店を継がずにサラリーマンをやれと言ったそうです。先を見越すことに長けていた父の言葉だったからこそ、石家さんは地元の金融機関に勤めました。その7年後、父が倒れたことをきっかけにお店に戻ることになります。

お店を継ぐことになっても父にしかわからないことも多く苦戦したそう。そんな中助けてくれたのは商店街の大先輩たちでした。特に観光協会元会長の山田昇さんの「感謝、ありがとう、おかげさま」「仕事や役職などを受けたらしつかりやれ」「出る杭(若い人)は育てろ」などの言葉は今でも響いているそうです。お店を続けてこられたのも先輩方に恵まれた、運が良かっただけ、と言うところにも本当に感謝しているのだと感じました。

炭鉱閉山後からは売る先も少なくなってきたため、石家さんもなるべく先々を読みながら、卸やめ、事業を徐々に縮小して現在の小売のみとなりました。小売のみとは言っても、店頭に並ぶ商品は何百種類と揃っています。特に日本酒は全国の蔵元を回り、蔵から直送で仕入れているので、地酒専門店として自信をもって日本酒を提供しています。元は石家さんが蔵元を回っていましたが、現在は店長である息子さんが行っています。息子さんがお店に携わることについて、石家さんは「やりたいならやればいいし、やめたければやめたい」と、あくまでも息子さんの人生を尊重しています。

(株)丸ヨ 石家商店

〒073-0151

砂川市東1条北1丁目1の1

0125(52)3191

9時〜20時(日曜・祝日は10時〜18時)

第一・第三日曜休み(12月は無休)

すながわのおみせ

ウリ薬局

vol.03

実家と商店街を大切にしてい 四代目のいる薬屋さん



ウリ薬局で働くみなさん。右から2番目が瓜秀彬さん



『ウリ薬局』はなんと今年で創設0年。現在は四代目となる瓜秀彬さんとご両親、1名の従業員の4人がお店にいます。お客さんの中には瓜さんの祖母の代か30年ほど通ってくれている方もいるそうです。

店内に置いてある商品は約三百点あるそう。眺めてみても正直あまり知らない薬が多いのですが、それもそのはず。とある団体に所属して研修を受けていないと取り扱えないものだからだそうです。お客さんに安心して手に取ってもらうために、全て自分たちで使用して効果を体感した上で勤めています。CMなどで知っている商品を知らない店員から買うのか、よく知らない商品だけ信頼できる店員から買うのか、ウリ薬局は後者を目指しています。ドラッグストアには置いていない、ウリ薬局だからこそ提供できるものを。そこで大手のドラッグストアとの差別化を図っています。

瓜さんは東京都の大学を卒業後、6年間製薬会社に勤めました。その後、山形県にある地域に根差した相談薬局で2年働いたあと砂川へ戻ってきました。はじめから実家で働くつもりでしたが、企業に勤めたのは薬剤師になる前に一社会人としての経験を積んでおきたかったからであり、山形の薬局はウリ薬局と似た環境であったため、勉強させてもらうために砂川に戻ってきたのだそうです。それだけの経験を積んでおきたかったのも、ある思いがあったからでした。

昔はお店と住宅がくっついていて、学校帰りにお店から中に入って、お店にいたお客さんや商店街の人に声をかけてもらっていました。親から店番を頼まれて、そこでお客さんと話すことも。それだけ商店街や街のひととの距離が近く、一緒に育ってきた記憶があるから、『ウリ薬局』や砂川の商店街は瓜さんの人生の一部となっています。だからこそお店を継いで実家を守りたい、両親に楽をさせたい、という思いがずっとあるのです。

そんな瓜さんの夢はお子さんや若い人も気軽に立ち寄れるような薬局をつくること。今の薬局はどうしても処方箋がないと入りにくいですが、学校帰りの子どもたちが立ち寄って遊んでいけるような場所を併設するなど、商店街としてもそんな場所があるといいと思っています。でもまずはなんでも気軽に相談できて商店街のにぎわいに繋がるような、自分の街にこのお店があつて良かったなと思ってもらえるような薬局づくりをしていきたいそうです。そして自身が結婚して幸せな家庭を作ること大切な夢です。



ウリ薬局

〒073-0161

砂川市西1条北1丁目1の36

0125(52)4386

平日9時～19時 土曜9時～18時

日曜・祝日休み